

■ドイツ：州議会選挙で緑の党が躍進、原子力政策への反発反映

ドイツ南部のバーデン・ビュルテンベルク州の議会選挙が2011年3月27日に実施された。同州は与党キリスト教民主同盟（CDU）が1953年以来政権を担ってきたが、CDUの支持は落ち込み、緑の党が得票率を大きく伸ばした結果、社会民主党（SPD）も含めた野党勢力が議会の過半数をおさえる見通しとなった。同州には稼働中の原子力発電所が4基あり、野党勝利の背景には福島第一原子力発電所事故に起因したメルケル政権の原子力利用延長政策に対する反発があるとドイツのメディアは伝えている。与党は福島事故を受けて原子力改正法の3カ月凍結や建設年代の古い7基の発電所の運転停止などの決定を下したが、世論の支持は得られなかった模様。メディアは更に、この州議会選挙結果は連邦議会への影響が大きく、与党の原子力政策に対する見直し圧力が高まるのは避けられないと伝えている。